



地図記号は昔からずっと一緒なの？ 博士教えて！

地図の歴史は 100 年以上あるのじゃが、その時々で作成目的や社会情勢の変化などで地図記号の項目は変化してきているのじゃよ。



【地図記号の役割】

地図は、道路、鉄道、建物、植生など表示する項目ごとに、形、大きさ、太さ、色など一定の決まり（図式）にしたがって描いた記号の集まりです。国土地理院が制定する地図記号は、地図を容易に読み解きできるようにするため、その実物が連想できるわかりやすい簡単な形で定めることを原則としています（図 1）。



図 1 煙突の地図記号
煙突とその影、
けむりを組み合わせた

【戦前の地図記号】

図式は、時代とともに変わる地図作成の目的や技術、表示項目の重要性などの変化を受けて適宜変更されてきました。近代測量を行う機関として、国土地理院の前身である「民部官庶務司戸籍地図掛（みんぶかんしょむつかさこせきちずかかり）」が明治政府に設置された当時はフランスの地図記号を、その後はドイツの地図記号を参考に図式を制定しています。

1917 年（大正 6 年）に定めた 5 万分 1 地形図図式では、図式の中でも適用期間が最も長く部分的な変更はあったものの 1955 年（昭和 30 年）に改定するまでの 38 年間使用されました。1917 年制定当時は参謀本部に属していたため、地図に記載する項目は主として軍事上の観点が基準となっていました。例えば、現在の水田記号（田）は通行の難易度により、乾田、水田及び沼田の三つに分けています（図 2）。乾田は冬場にはぬかるまない田、沼田は冬場でもぬかるむ田、水田はその中間です。冬場の乾田なら、歩兵や軍用車両などの通行が可能ということが地図から読み取れます。



図 2 田の地図記号
〔左 / 沼田、中 / 水田、右 / 乾田〕

【戦後の地図記号】

戦後の図式では軍施設の地図記号を省き、地図縮尺の違いやその後の社会情勢の変化を踏まえて地図記号を定めています。基本的には、国土地理院の中で議論し記号を制定しますが、例外的な事例として、2006 年（平成 18 年）に全国の小中学校からデザインを公募して制定した「老人ホーム（壺）」と「風車（ト）」の記号があります。2019 年（平成 31 年）には、過去の自然災害を伝える石碑などを地図に表示して、地域防災などに役立ててもらうため、新たに「自然災害伝承碑（田）」の記号を制定する予定です。

▼自然災害伝承碑に関する詳細はこちら

<http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/bousaichiri190315.html>

（基本図情報部）